上美生中学校　２年　授業計画（シラバス）

技術・家庭

１．教科の目標

生活の営みに係る見方・考え方や技術の見方・考え方を働かせ，生活や技術に関する実践的・体験的な活動を通して，よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて，生活を工夫し創造する資質・能力と実践的な態度を育てる。

〇技術科の目標〇

技術の見方・考え方を働かせ，ものづくりなどの技術に関する実践的・体験的な活動を通して，技術によってよりよい生活や持続可能な社会を構築する資質・能力を育てる。

〇家庭科の目標〇

生活の自立に必要な基礎的・基本的な知識及び技術を習得するとともに、生きるために必要な事象を学び、 持続可能な社会を目指し、実践できる力を育てる。

技術・家庭科は「技術分野」と「家庭分野」の２分野で構成されています。技術分野は「A 材料と加工に関する技術」「B エネルギー変換に関する技術」「C 生物育成に関する技術」「D 情報に関する技術」の４領域、家庭分野は「A 家族・家庭と子どもの成長」「B 食生活と自立」「C 衣生活・住生活と自立」「D 身近な消費生活と環境」の４領域の計８領域からなり、３年間を通じて計画的に学習していきます。

２．年間計画

前　期		後　期	
月	内　容	月	内　容
４	**生物育成に関する技術** ・わたしの生活と生物育成 ・作物の栽培　*観察①*	10	**後期は家庭科**
５	・作物の栽培　*観察②* ・生物育成技術と私たち **生物育成**　生物の栽培　*観察③*	11	
６	**生物育成**・生物の栽培　*観察④* **エネルギーに関する技術** ・わたしたちの生活とエネルギー変換	12	
７	**生物育成**・生物の栽培　*観察⑤* **エネルギーに関する技術** ・電気製品の製作と安全利用　*実技確認①*	１	
８	**生物育成**・生物の栽培　*観察⑥* **エネルギー変換の技術** ・電気製品の製作と安全な利用　*実技確認②*	２	
９	**生物育成** ・まとめ　収穫と片付け（畑の管理） **エネルギー変換の技術** ・これからのエネルギー変換の技術 *実技確認③* *前期期末テスト*	３	

３．評価の観点（目標）と方法

知識・技能・・・・・生活や社会で利用されている材料，加工，生物育成，エネルギー変換及び情報の技術についての基礎的な理解と，それらに係る技能・技術と生活や社会，環境との関わりについての理解する。

思考力，判断力，表現力等・・・・・生活や社会の中から技術に関わる問題を見いだして課題を設定し，解決策を構想し，製作図等に表現し，試作等を通じて具体化し，実践を評価・改善するなど，課題を解決することができる。

主体的に学習の取り組む態度 ・よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて，適切かつ誠実に技術を工夫し創造しようとする実践的な態度をもつことができる。

評価の観点	方法（評価の資料となるもの）
知識・理解	取組の様子、発言、発表、ワークシート、実技テスト、作業時の準備定期テスト、小テスト
思考・判断・表現	取組の様子、発言、発表、ワークシート、作品の工夫、小テスト、定期テスト
主体的に学習に取り組む態度	取組の様子と実技確認、発言、発表、自己評価、ワークシート

４．学習の進め方（※授業を受けるにあたっての留意点・家庭学習のポイント）

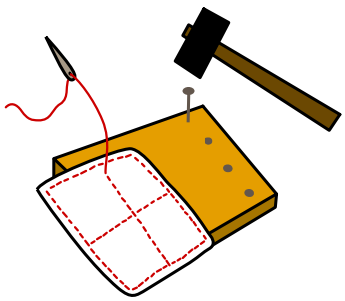
技術・家庭科は、“社会の変化に主体的に対応できる人間の育成”を目指して、みなさんが自立して生活することや、学習した内容を生かして自分なりの工夫をして生活することを目標にしています。

授業・・教科書・ファイルを準備する。
- 実習では、目的と方法を理解し、けがのないように十分注意して取り組む。
- 作品の製作は最後まであきらめず、丁寧に取り組む。
- 班活動では、話し合いをしながら、協力して効率よく作業を行う。

家庭・・家庭での仕事を手伝おう！

①身近なところに技術？

技術・家庭科は、生活する中で学ぶことが多い教科です。木材や金属、土やパソコン、スーパーに並ぶ食品やみなさんが身につけているものなど、全てのものに“生活をよりよくしよう”とさまざまな技術が詰め込まれています。そんな身の回りのものに目を向け、興味を持つことが技術・家庭科を学んでいく上でとても大切になります。

②こんなところにも学習が！

たまに宿題が出るかもしれませんが、毎日の生活のなかで家庭の仕事を積極的に手伝うことが　技術・家庭科の学習につながります。食事の準備・後片付け、掃除に洗濯、ものづくりをする、家庭菜園を手伝う、パソコンを使うなど身近なところに学ぶチャンスがあります。その中で興味　をもったことや疑問に思ったことを追求していく姿勢を大切にしていきましょう。